opusdei.org

年間第2週・火曜日 11. 人間の尊厳

年間第2週・火曜日 11. 人間 の尊厳 一人間の偉大さと尊 厳。一仕事における人の尊 厳。教会の社会教説の諸原 理。一公正な社会。

2024/04/02

年間第2週・火曜日

- 11. 人間の尊厳
- 一 人間の偉大さと尊厳。

- 一仕事における人の尊厳。教会の社 会教説の諸原理。
- 一公正な社会。

11. 1 人間の偉大さと尊厳

イエスは、麦畑を通って進んでいま した。弟子たちは食べごろの麦の実 をいくつか摘み取り、食べるために 両手で剥いて皮をとりました。それ は安息日でした。ファリサイ人たち は、主が弟子たちを非難することを 望みました。というのは、彼らの道 理に従えば、安息日にはそのような 事さえ正当ではないからです。イエ スは、弟子たちと安息日の休息につ いて弁護されました。イエスは、聖 書に言及されて弁護されます。「ダ ビデが、自分も供の者たちも、食べ 物がなくて空腹だったときに何をし たか、一度も読んだことがないの か。アビアタルが大祭司であったと き、ダビデは神の家に入り、祭司の ほかにはだれも食べてはならない供

供えのパンは聖所の机の上に置かれる12のパンから成り立っています。イスラエルの12の部族に敬意を払うために²机から移されたパンは、司ために²机から移されたパンは、司れを行う祭司のために取ってもリスを行うのであるをであるない。旧約を定められた。立ちさの序列を定められた。立ちさのではです。備えのパンのでは、近くでは、は自然法に関するに変えたのです。に変えに関するに変えたのです。に変えたのです。に変えたのです。が、最近に関するに置いれている。

譲りました³。 安息日の掟は生きる ために最低限度必要な事柄に従うべ きなのです。

第二バチカン公会議は、この出来事からヒントを得て、経済的、社会的発展に勝る個人の価値を強調するためにこの出来事にヒントを得ています⁴。神に次いで最初に来るのは人間です。この順序を間違えれば、不運にも私たちが頻繁にその出来事を目にするように、総混乱を引き起こすことでしょう。

キリストの聖なる人性は、私たちー 人とりの存在と生涯を照らが全在と生涯を照らが全でなら、私たちが全 を認めることはおりにおいがあまるからです。「あなたがについるも」、「あなたがについたがにもない。「本本にはないです。」、「本本にはないない。」、若者にいるの意味を与える人である。

キリストを見なさい| と⁵。 それは イエスただ一人です。他のどんな人 間も私たちの存在に意味を与えるこ とはできません。ですから、下級の 被告物や、更に下級の人間の労働や 生産や努力の物的な結果をもとにし て人間を定義することはできませ ん。人間個人の偉大さは魂の霊的現 実、天の世継ぎ、永遠の生命、神か ら受けたこれらのすべてに基づきま す。だからこそ、すべての被告物の 中で、人は最も崇められる存在なの です。人が受けるに値する尊厳と多 大な尊敬は、受胎の瞬間に与えられ ます。そして、それは生命の侵すこ とのできない権利と母権に対する尊 敬の基礎になるのです。

人間の尊厳に授けられた最も重要な称号は、神が愛される目に見える創造物の唯一の実在であるという称号です。神は、それをご自分のイメージに似せて創られ、恩恵の秩序にまで高められました。更に人間は、受

肉によって神の子が、すべての人間 のために、人間性をおとりになり、 生命をお与えになった後、人間は新 しい価値を与えられました。これ が、私たちが周りのすべての霊魂に 関心を払う理由です。キリストがお 愛しにならない人は一人としていま せん。私たちが敬意と思いやりを持 たない人が一人でもあってはならな いのです。私たちは日々会って話す 周りの人々を見るべきです。そし て、神の現存のうちに他者への理解 と真の尊敬を示しているかどうか、 実際に今、よく考えてみるべきで す。

11. 2 仕事における人の尊厳。教会の社会教説の諸原理。

人間の尊厳 - 神の似姿に創られた創造物 - は、社会、仕事、科学の真の発展を判断するための唯一の基準であって、その逆のものではありません⁶。 人間の尊厳は、個人的、社会

的な行動のすべて、特に、仕事の領 域に表れます。神の創造物である人 間が、創造主の命令に気づき、果た したのは、仕事の領域でした。創造 主は人間を無から創り出し、働くよ うにと罪のない世界に置かれまし た。ですから人間は、仕事をすべき です⁷。 また、このようにして人間 に栄光をお与えになります。利益だ けを尊重したり、仕事が単に商品と して考えられたり、人が生産する物 によってのみ評価されたり、つまり 什事をする人よりも什事に、それを 成し遂げた人よりも物に大きな価値 を置いて、人としての尊厳が剥奪さ れることがないようにするのが、教 会が働く人の尊厳を守る理由です 8。 ヨハネ・パウロ二世が言われた ように、仕事が単に利益のための手 段として利用されたとき、人は人が 働いて生み出すものによってだけし か評価されません。

これは、働く人に対する外交辞令や 待遇の問題ではありません。なぜた ら、親しい関係であっても、社の関係であることで会社で会社を安全にが を上げたり、会社を安全にで労働 者が雇用されたりすれば、とにち が雇用されたりすれば、とにち が高い対して訴訟を起こすことがありません。 後、ウムとりればなりません。 後、尊ばなければなりません。

つまり自然界・超自然界を通じて、 人類の霊的完成を容易にし促進する という、より高次な目的を達成させ る道具・手段としての価値 — に 従って評価されなければならないも のである」 $\frac{10}{10}$ 。

労働と所有権の間の密接な関係は、 その関係自体の完成のためにも、働 く人は、自分の仕事の中に、自分は 〈自分のため〉に働いているという ことを、ある程度まで、しかも真の 意味で、知ることができるようにす べきなのです¹¹。

労働の尊厳は、すべての社会的正義 の基盤である、自由な契約による場 合にも、報酬という形に表れます。 というのは、明記された給料が法律 に合うにしても、全く合法だと認め られるとは限らないからです。も し、契約者である会社社長、建築者 者、所有者、家の女主人が、労働の 余剰のある状況、たとえば、人間と

しての労働者の尊厳に不釣り合いな 給料を支払うなら、それは創造者に 対してと同様に、関わりのある男女 への罪になるでしょう。というの は、本人と家族を支えるのに十分な 手段を奪われないという自然の権利 があるからです。その権利は、自由 な契約の権利よりも重要だからです 12。 他の筋の通った結論としては、 私たちは誰であっても、仕事をきち んとやり遂げる義務があるというこ とです。義務を怠り、生温い態度で 働くことに満足してはいけません¹ 3。 怠惰と不完全な仕事は、社会的 正義に反します。

11.3 公正な社会

私たちは次のことを心に留めておく必要があります。経済的発展の主要な目的は、単に物の生産量を増やすことではなく、利益でも権力でもなく、人間に対する奉仕である。即ち、物質的必要と知的、道徳的、霊

的、宗教的生活の要請を考慮したう えでの人間全体に対する奉仕です¹ ⁴。 しかし、経済に対する合法的な 自治権の分野を否定してはいませ ん。この自治権のお陰で、私たち は、経済的な問題の原因を、調査し たり、技術的、政治的解決を示唆し たりできるのですから、この世にお いても妥当な権利です。しかし、そ の解決案は、いつも倫理的秩序のよ り高い基準に従うものでなければな りません。というのは、それらは、 絶対的な意味で全く独立し、自主的 なものではないからです。また、私 たちは、倫理的無秩序に根本的な原 因がある問題に立ち向かうとき、純 粋に技術的に規定された解決案を信 用してはいけません。

神の子である人間の尊厳が十分に認められ、敬われる公正な社会に到達するまでには長い道のりがあります。そうすることは、キリスト者としての良い意向を持ったすべての

人々と共に私たちに属する仕事で す。「人々との関係において、正義 が実行されるのを求め愛さないなら ば、実際に正義を愛していることに はならないのです。人々の必要を無 視して、安易な信心生活に閉じこも ることも許されません。神の御心に 適った生活を望むならば、正義が 人々の間で実現されるように努力し なければならないのです」¹⁵。 私た ちはすべての、たとえば授かったば かりの生命も含めて、命を守るため に一人ひとりを尊重して生きなけれ ばなりません。そこには生きる権利 を持つ神の子がいるからです。神は 誰も奪うことができないものをお与 えになりました。同様に、死の権利 の問題は、弱い人や老いた人を擁護 しています。私たちは社会が失いつ つある憐れみを忘れずに、慈悲深く なければなりません。従業員や労働 者として、仕事と専門的知識によっ て、また、企業家として、教会の社

会的教義を深く知り、この憐れみの 徳を実践していくのです。

私たちは日常の普通の生活に関しても同様に、人々の尊厳を認めなければなりません。付き合う人々に欠らがあったとしても、彼らを神の子とのなる噂や害になりそうなことはであるでもすべて避けることです。「あなたが接する一人ひとりを、それぞれの守護の天使の保護に委ねなれ

れぞれの守護の天使の保護に委ねなさい。守護の天使はその人たちが善良で忠実、しかも朗らかでいることができるように助けてくれるでしょう」 16 。 そうすれば、私たちが人々と一致することは非常に容易になり、私たちの間には、愛情と平和、互いの尊敬が育っていくでしょう。

人の子は安息日の主でもあります。 私たちは皆、すべてをキリストの善 - 最高の善 - に、そして人間に従 わせなければなりません。キリスト は、その救いのためカルワリオでご 自身をいけにえとしてお捧げになり ました。いかなる現世の善も、たと え安息日であっても、人間よりも偉 大な善ではありえないのです。

¹マルコ 2・23-28

[』]レビ記24・5-9

³ The Navarre Bible, EUNSA, Pamplona 1983 in loc 参照

⁴ 第二バチカン公会議 現代世界憲章 26

⁵ 聖ヨハネ・パウロ二世 説教 ニュー ヨーク 1979年10月3日

 $rac{6}{2}$ ibid, Address, 15 June 1982, 参照7

⁷ 創世記2・15

[®] 聖ヨハネ・パウロ二世,Address, 24 November 1979

- ⁹ 聖ヨハネXXⅢ世 「マーテル·エ ト・マジストラ」83 1961年5月15日
- 10型ヨハネXXIII世 「マーテル・エト・マジストラ」246 1961年5月15日
- ¹¹聖ヨハネ・パウロ二世 『働くこと について』15
- 12 聖パウロVI世 回勅『ポプロール ム・プログレシオ』59 1967.3.24 参 照
- ¹³ 聖ヨハネ・パウロ二世, Address, 7 November 1982
- ¹⁴ 第二バチカン公会議 現代世界憲章 64
- ¹⁵ 聖ホセマリア・エスクリバー 『知識の香』 5 2
- ¹⁶ 聖ホセマリア・エスクリバー 『鍛』 1012

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-II-ka/ (2025/11/20)